

参考情報

1. 神奈川県に被害を及ぼした主な地震
2. 神奈川県の地震被害想定
3. 南海トラフ地震臨時情報

1. 神奈川県に被害を及ぼした主な地震

西暦(和暦)	地域(名称)	M	県内の主な被害(カッコは全国での被害)
818 (弘仁9)	関東諸国	7.5以上	(相模、武蔵、下総、常陸、上野、下野などで被害。圧死者多数。)
878. 11. 1 (元慶2)	関東諸国	7.4	(相模、武蔵を中心に被害。圧死者多数。)
1257. 10. 9 (正嘉1)	関東南部	7.0~7.5	鎌倉で山崩れ、社寺・家屋倒壊などの被害。
1293. 5. 27 (永仁1)	鎌倉	7.0	鎌倉で社寺・家屋倒壊、延失などの被害。死者数、数千から23,000人余の諸説あり。
1498. 9. 20 (明応7)	東海道全般	8.2~8.4	鎌倉で津波により、溺死者200人。
1633. 3. 1 (寛永10)	相模・駿河・伊豆	7.0	小田原で最も被害が大きく、小田原市内で死者150人、家屋全壊多数。箱根でも死者あり。
1648. 6. 13 (慶安1)	相模・江戸	7.0	小田原領内で家屋全壊多数。箱根で死者1人。
1649. 9. 1 (慶安2)	川崎・江戸	6.4	川崎で民家140~150軒などが倒壊。付近の村でも家屋の倒壊あり。死傷者多数。
1697. 11. 25 (元禄10)	相模・武蔵	6.5	鎌倉で家屋全壊あり。
1703. 12. 31 (元禄16)	(元禄地震)	7.9~8.2	沿岸部を中心に甚大な被害。小田原領内で、死者2291人、家屋全壊8,007棟、津波による被害もあり。
1782. 8. 23 (天明2)	相模・武蔵・甲斐	7.0	箱根・小田原で被害が大きく、住家約800棟破損。
1812. 12. 7 (文化9)	武蔵・相模	6.4	横浜で家屋全壊22棟。付近でも死者、家屋全壊あり。
1863. 3. 11 (嘉永6)	小田原付近	6.7	小田原を中心に被害。死者24人、負傷者13人、家屋全壊1,068。
1885. 11. 11 (安政2)	((安政)江戸地震)	7.0~7.1	県東部を中心に被害。死者24人、負傷者75人、家屋全壊64棟。
1894. 6. 20 (明治27)	東京湾北部((明治)東京地震とも呼ばれる。)	7.0	横浜市、橋樹群を中心に被害。死者7人、負傷者40人、建物全半壊40棟。
1923. 9. 1 (大正12)	(関東地震)	7.9	死者・行方不明者33,067人、住家全壊62,887棟、住家焼失68,569棟、住家流出埋没136棟。
1924. 1. 15 (大正13)	丹沢山麓 (丹沢地震ともよばれる。)	7.3	関東地震の余震。死者13人、負傷者466人、住家全壊561棟。
1930. 11. 26 (昭和5年)	(北伊豆地震)	7.3	死者13人、負傷者6人、住家全壊88棟。
2005. 2. 16 (平成16)	茨城県南部	5.3	負傷者1人
2005. 7. 23 (平成1)	千葉県北西部	6.0	負傷者9人

出典元:日本の地震活動 被害地震から見た地域の特徴 第2版

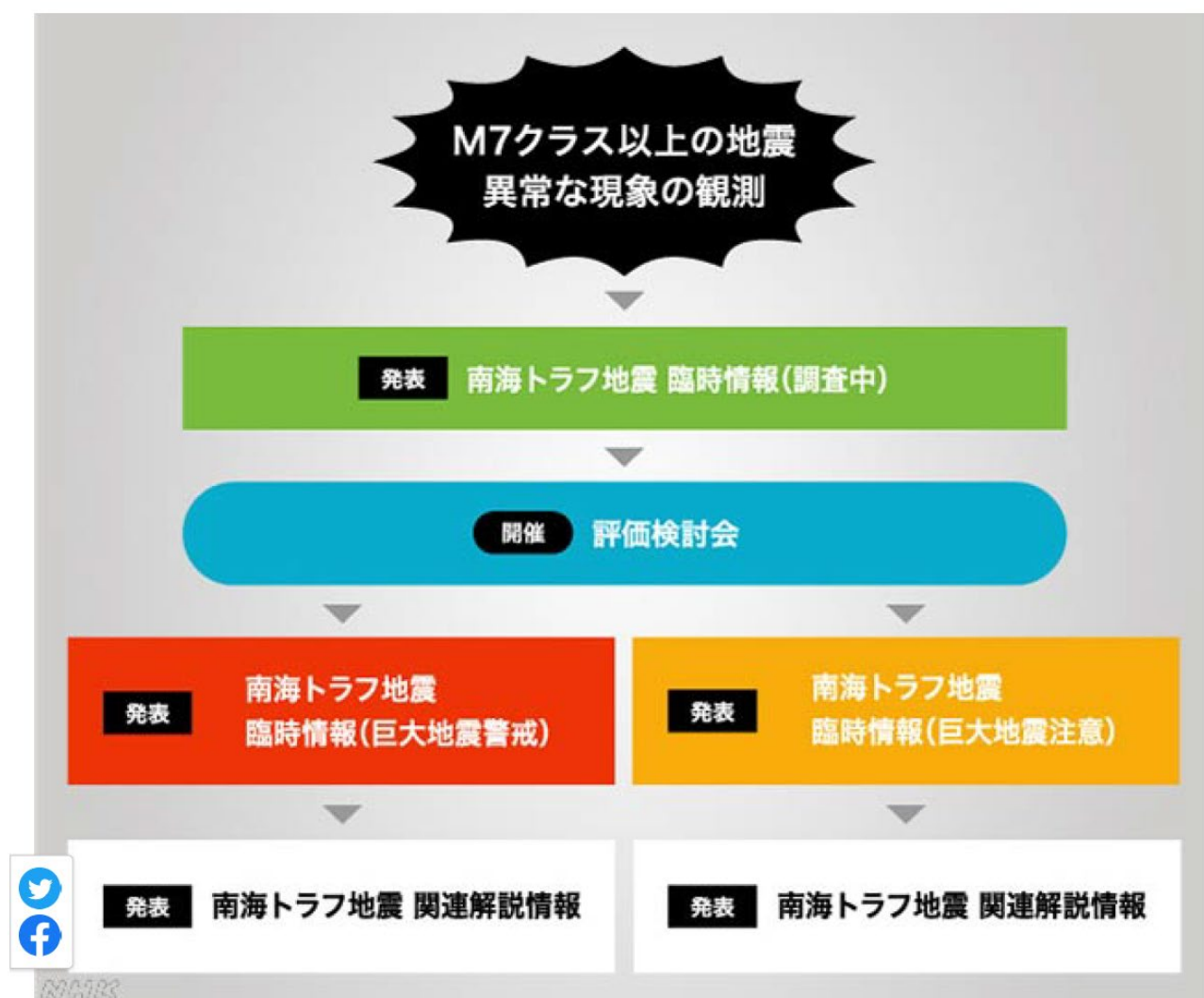
2. 神奈川県地震被害想定

想定地震		震度と津波の想定
(1) 都心南部直下地震		7.3 Mw 30年以内に地震が発生する確率:70%程度
震度	県の中央から東部にかけて震度6弱の揺れが想定され、特に、横浜市、川崎市、相模原市、厚木市で、震度6強の揺れが想定されます。	
津波	県内では最大でも1mの水位が想定されますが、被害は発生しません。	
(2) 三浦半島活断層群の地震		7.0 Mw 30年以内に地震が発生する確率:6%~11%
震度	横須賀三浦地域から湘南地域、横浜市、川崎市、の一部で震度6弱以上の揺れが想定され、特に、横浜市、横須賀市、逗子市、葉山町で、震度6強の揺れが想定されます。	
津波	東京湾内で2m以下、相模湾内で1m以下の水位が想定されます。	
(3) 神奈川県西部地震		6.7 Mw (過去400年の間に同クラスの地震が5回発生)
震度	県西地域で震度6弱の揺れが想定され、特に、小田原市、真鶴町で、震度6強の揺れが想定されています。	
津波	相模湾内で2~6m、東京湾内で2m以下の水位が想定されます。津波の到達時間は、相模湾内で5~30分、東京湾内で60以上と想定されます。	
(4) 東海地震		8.0 Mw (南海トラフの地震は30年以内70%程度)
震度	県の中央から県西地域にかけて震度5強の揺れが想定されます。	
津波	相模湾内で3~8m、東京湾内で2~4m以下の水位が想定されます。津波の到達時間は、相模湾内で25~40分、東京湾内で60以上と想定されます。	
(5) 南海トラフ巨大地震		9.0 Mw (南海トラフの地震は30年以内70%程度)
震度	県西地域の一部で震度6弱の揺れが想定されます。その他の地域では、震度5強以下と想定されています。	
津波	相模湾から東京湾にかけて、2~9mの水位が想定されます。津波の到達時間は、相模湾内で30~40分、東京湾内で60分以上と想定されます。	
(6) 大正型関東地震		8.2 Mw 30年以内に地震が発生する確率:ほぼ0%~5% (2百から4百の発生間隔)
震度	県西地域と県北部の一部を除き、ほぼ全域で震度6強以上の揺れが想定され、特に、川崎市、横浜市から湘南地域、県央地域、県西地域にかけて、震度7の揺れが想定されます。	
津波	相模湾内で6~10m、東京湾内で2~4m以下の水位が想定されます。津波の到達時間は、相模湾内で5~10分、東京湾内で25~45以上と想定されます。	

引用元: 神奈川県地震被害想定調査(2015年3月) 神奈川県地震被害想定調査委員会
 神奈川県の地震活動の特徴(地震本部)
 日本の地震活動 被害地震から見た地域の特徴

3. 南海トラフ地震臨時情報

「南海トラフ地震臨時情報」は、東日本大震災を引き起こした巨大地震が予測できなかったことなどをきっかけに、予知を前提としてきた「東海地震」の情報を取りやめ、2017年11月に導入されました。当初、「南海トラフ地震に関連する情報」という名称でしたが、2019年5月末から、「南海トラフ地震臨時情報」に改められ、とるべき防災対策がわかりやすいように「巨大地震警戒」や「巨大地震注意」などのキーワードを付けて発表することになりました。



南海トラフ地震臨時情報(調査中) **発表**

南海トラフ沿いでマグニチュード6.8以上の地震が発生するなど、ふだんと異なる現象が観測された場合、調査を始めることを示す「調査中」というキーワード付きの情報が発表されます。

評価検討会 開催

その後、専門家で作る評価検討会が巨大地震と関連があるか検討を行い、最短で約2時間後に結果を知らせる情報がされます。

南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒) 発表

その1つが「巨大地震警戒」というキーワード付きの情報です。
想定震源域の半分程度がずれ動くなど陸部のプレートと海側のプレートの境目でマグニチュード8.0以上の地震が起き、次の巨大地震に対して警戒が必要とされた場合に発表されます。国のガイドラインが示した防災対応は「地震が発生した時に津波からの避難が明らかに間に合わない地域の住民は事前に避難する」などです。

南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意) 発表

もう1つが、「巨大地震注意」というキーワードが付いた情報です。
プレートの境目でマグニチュード7.0以上8.0未満の地震が起きたり、想定震源域の周辺でマグニチュード7.0以上の地震が起きたりして、その後の巨大地震に注意が必要とされた場合に発表されます。
この場合の防災対応は「日頃から備えを再確認し、必要に応じて自主的避難する」です。

また、揺れを伴わずにプレートの境目がゆっくりと動く「ゆっくりすべり」が通常とは異なる場所などで観測された場合も「巨大地震注意」が発表されます。この場合の防災対応は「避難場所家具の固定を確かめるなど、日頃からの備えを再確認する」です。

南海トラフ地震関連 解説情報 発表

これらの情報が発表された後に地震活動や地殻変動などの状況については、「南海トラフ地震関連 解説情報」を随時発表することになっています。

◎不確実性のある情報 ふだんの備えが重要

南海トラフ地震臨時情報は、あくまでも「ふだんと比べて、相対的に発生可能性が高まった」という不確実性のある情報です。

臨時情報が発表されないまま、いきなり巨大地震が発生する可能性もあります。

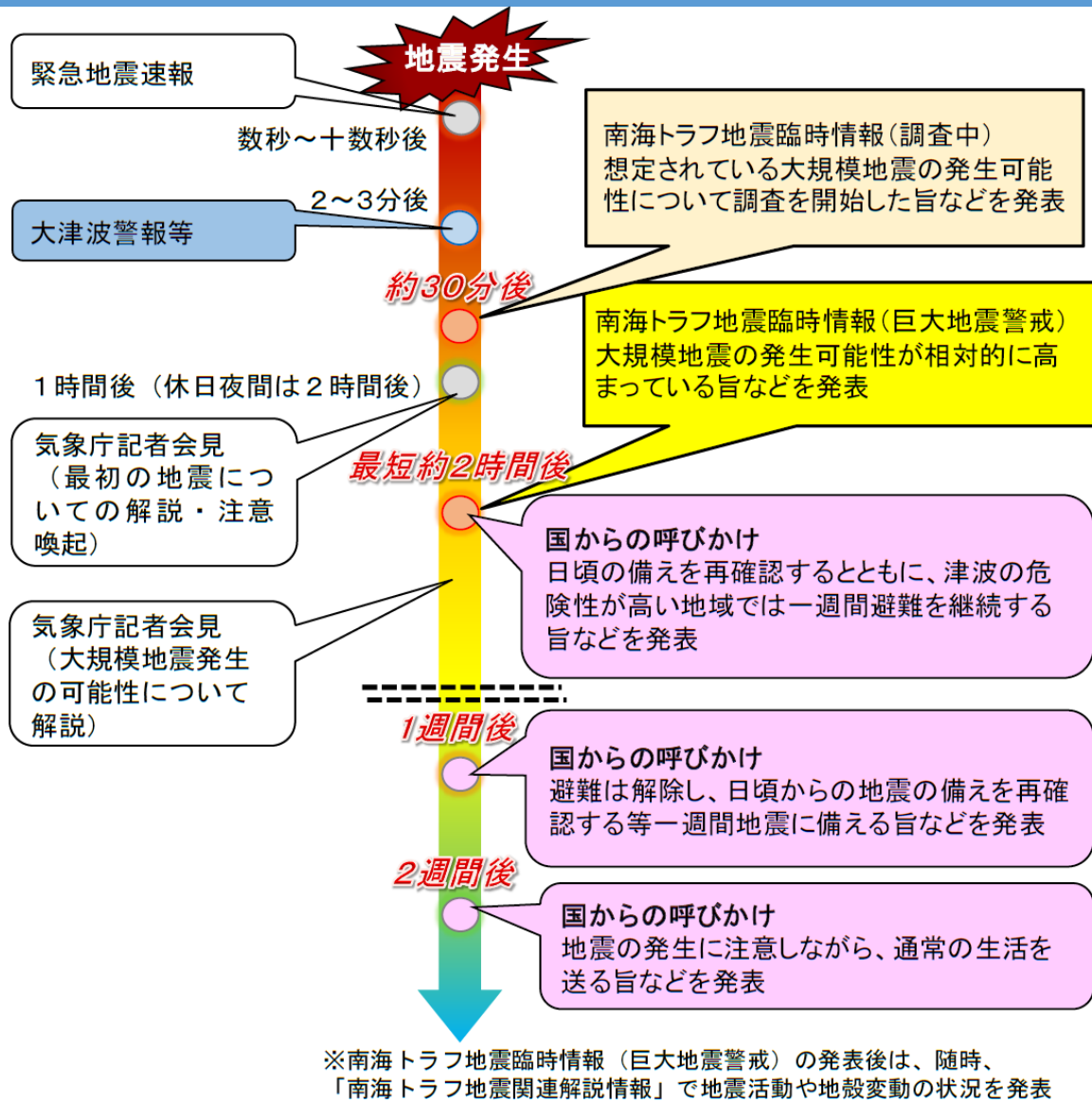
また、臨時情報が発表されても地震が起きないという「空振り」も考えられるほか、情報に基づく防災対応期間が終わった後で巨大地震に襲われることもありえます。

このため、国が示したガイドラインでは「臨時情報を活用して被害を軽減することにつなげることが重要だ」としつつも「ふだんから津波避難施設の整備や、建物の耐震化、家具の固定などの備えを進めることが欠かせない」としています。

出典：NHK 災害列島命を守る情報サイト

南海トラフ巨大地震臨時情報が出た時の行動は？

「巨大地震警戒対応」における情報の流れのイメージ



出典: 南海トラフ地震の多様な発生携帯に備えた防災対策検討ガイドライン(第1版)
内閣府